

令和元年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校

学校長名：木皮 享



めざす学校像 育てたい生徒像	自ら人生を切り拓く人を育てる学校 改革への情熱と伝統を重んじる心を兼ね備えた生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上
	2 高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実
	3 生徒の自主的・自律的な生活習慣の確立。欠席しがちな生徒への早期対応。
	4 中高一貫教育の充実深化に向けた具体的方策の構築

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 桐蔭 FD による授業改善を実施する。教え込む授業から、自ら考えさせる授業への転換。 教育環境を見直し、より効率的で効果的な教育体制の構築。 教育課題を抱えている生徒に対する対応の組織化。 「桐蔭祭」をはじめとした生徒の主体的な活動の活性化。
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重点目標					年度評価(3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	高等教育機関への進学を希望している生徒に対し、その基盤となる知識・技能を定着させることが現在の課題である。さらに本年度より50分授業に移行するため、より密度の高い授業の実践が求められる。また、生徒に学習意欲や目的意識を持たせることで、学習時間を増加させるとともに、主体的・能動的な学習態度を育成する取組も必要である。	50分授業という枠組みの中で、生徒の自主性を高め、学習意欲や集中力を喚起する授業が各科目において展開されているか。生徒の実態把握に努め、実態に応じた指導がなされているか。教科の教員が全体として学習指導方法の改善に取り組んでいるか。	<ul style="list-style-type: none"> 3年生夏期補習の充実 個別学習指導の充実 学習支援プログラムの充実 学年・教科等の連携による家庭学習時間確保の指導 定期考査の分析および対策 家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科内外での情報交換協議 	<ul style="list-style-type: none"> 各種補習の総時間数の確保 添削指導や個別指導、質問対応の実施状況 実態調査にみられる家庭学習2時間未満の生徒の割合減少 学年会・教科会での情報交換、協議の実施 	50分授業への移行の中で、それに対応した研究授業や公開授業が一定数行われた。また、新型コロナウイルスの影響で3月の授業が行えず授業時数が予定通り確保できなかった。家庭学習時間2時間未満の生徒については近年大きな変化は見られていない。夏期補習についても1,2年生については実施しなかったが、自主的・自発的な学習への誘導が行えているか検証する必要がある。	B	研究授業や公開授業を積極的に行える体制を維持し、職員間の指導法の共有およびさらなる授業力の向上を目指す。家庭学習時間の増加および自発的・能動的な学習の推進のためには、学校・生徒・家庭の連携はもちろん、いかに教師が動機付けをし、主体的な学習態度を育成できるかが今後の課題である。同時に計画的な課題提示が出来るか検証していく必要がある。
2	生徒の多くは、文武両道を実践しようとする意志を持って入学してくる。しかし、自分の持つ才能や能力を十分に活かせる将来設計や、大学選びが出来ていない生徒も少なくない。難関大学への進学を本気で目指し、努力する生徒集団に育てることが課題である。そのための基盤となる能力や態度を育てることを通じてキャリア発達を促し、高い能力を活かした将来設計のための組織的かつ系統的なキャリア教育が必要である。	生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的かつ自律的に学習できるよう、具体的な取組が系統立てて展開されているか。自らの人生を切り拓きつつ、社会に貢献できる人材育成のために、基礎的・汎用的能力を育成するための指導を組織的に行っているか。	<ul style="list-style-type: none"> 教科「キャリア桐の葉Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の各プログラムの実施 桐蔭リーダー塾や文化祭大討論会など学年クラスを越えた活動の有効活用 「進路だより」、進路講演会による情報提供や生徒への継続的な働きかけ、オープンキャンパス、桐蔭総合大学等への積極的な参加の啓発 学年集会や面談等を通して、生徒の自己分析と課題の発見を促し、高い志望を持ちあきらめさせないよう生徒を支援 現職教育、進路検討会や成績分析会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個人の振り返り文章R80による自己分析 活動の様子および各種調査を用いた分析評価 「進路だより」の内容と発行時期 参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査 難関大学への出願者数120名 全教員が少なくとも1回の研究授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生でのSDGsによる社会貢献への意識啓発、2年生でのブチ議会による根拠のある意見構築と合意形成、3年生での小論文による意見主張など新たな取り組みも加え実施出来た。 定期的な「進路便り」の発行、共通テストに関して2年生保護者向けに進路説明会を実施し情報提供が出来た。担任による個人面談等を通して自身が取り組むべき課題を明確にし、また進路講演会による主体的に学習に取り組む動機づけの補強も出来た。オープンキャンパスへの参加等を通して、自分は何をしたいのか明確化し、自身の能力が最大限に発揮できる環境はどこなのかを追求出来た。入試状況や難関大学入試問題、小論文研究会への教員の積極的参加もみられた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> R80やR120などの文章による振り返りは定着しつつあり今後も続ける。キャリア意識を「系」選択につなげるために「どんな社会貢献をするのか」「何を学びたいのか」を考えさせる取り組みを加えていく。 次年度の共通テストに関する情報の整理、提供のあり方に最善の注意を払うこと。具体的には「進路便り」や担任への速やかな情報提供を心がけ、各種研究会にも積極的に参加していくこと。生徒との面談等を通じて難関大学への挑戦意欲を高める指導を継続していく。最後まであきらめさせない指導体制を、職員全体の共通認識としてつくり出す。
3	生徒は概ね規律ある学校生活を営んでいるが、一部に遅刻、身だしなみの課題を残している。また、人間関係構築の未熟や心の課題を抱える生徒への支援の要請が強まっており、欠席の多い生徒への早期対応が求められる。生徒が安心して過ごす学校環境の維持といっそうの充実を図り、挨拶を皮切りに自ら踏み出すことへの積極性を育てる意識を職員共通のものとする。	生徒が自律的に行動し自己管理能力を高める支援のための重点項目としての、 <ul style="list-style-type: none"> 遅刻、下校指導 交通安全指導 身だしなみと持ち物の管理指導 相談体制の組織化と効率化 職員からの声かけ、挨拶の励行 中高を一貫しての生徒指導が適正に行われているかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己責任の遅刻を3回以上繰り返す生徒数が学期で5人を越えない。 交通規則のセーフティーカード発行数50件以下。 毎月の登校時の校外指導の実施。 中高を通して身だしなみと自転車無施錠・携帯電話の規則違反を見逃さず指導する。挨拶の意義の啓発。 教育相談体制の再構築と効率化。 現職教育による教職員の理解。 生徒情報の把握、共有と守秘。 	<ul style="list-style-type: none"> 通年遅刻者数の増減と個々の事情の把握。 P.T.Aと連携した交通指導・交通事故の発生件数とその把握、対応の様子。 身だしなみ指導・駐輪場の施錠及び使用状況。 来校者など外部からの提言。 カウンセリング室利用状況。 ケース会議の実施状況。 情報共有の具体的手立て。 	目標は概ね達成できたが、3学期に遅刻者が増加する傾向は以前と変わらない。カードの発行数は昨年より減少したが、自転車による交通事故が10件以上あった。駐輪場の施錠率は常に90%以上を維持し、警察からも評価を頂いた。身だしなみ指導に関しては、大きな問題となるような事案には至らなかった。教育相談やケース会議に関する取り組みは、速やかに実施対応でき、情報を共有することができた。	B	遅刻者への指導方法(反省文の提出等)を検討し、来年度より実施する。自転車事故はほぼ被害者側の立場であったが、周囲や相手への危機管理能力があれば防げたものが多く、アセンブリや学級掲示を活用して、事故の減少につながる情報を伝えていく。 【重要】問題を抱えた生徒の情報共有を行う場として、以下2点の実施推奨 ①週1程度5分間の職朝拡大(学年単位) ②月1程度放課後の学年会(15分程度) 上記が実施できれば情報の発信と共有を円滑に行うことができ、担任の負担軽減、生徒への対応をよりよく行えると思う。
4	新たな普通科のシステム運用で出てくる課題に対して、FDキャリア教育推進部が核となり中高全体を巻き込んだ議論によるキャリア教育を核とした合意形成をしていく。	新たな普通科のシステムが有機的に機能しているのか、中高一貫の具体的な検討が進んだか。「系」選択は生徒の意志決定で行われたか。	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による諸活動における課題の提示と協議、合意形成、実施内容の結果検証 FD研究テーマの設定や公開授業の実施による課題意識の共有 	<ul style="list-style-type: none"> FD会議等での情報意見交換会の実施 互いの公開授業の実施および見学状況 新たな普通科のシステム運用の有効性 	<ul style="list-style-type: none"> 「新たな普通科」にかかわる現職教育、情報提供意見交換は十分に出来た。 1年生の「系」選択に関わる検討会を実施し指導の方向性を一致させた。 研究授業のテーマ設定が不明確で実施者数も昨年度よりも少なかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 検討会を大切にしながら、「系」新興に関わる指導の方向性を明確にし、同じ方向性について指導していく。 研究授業でのテーマ設定を明確にして、より実効性の高い授業研究のスタイルに移行する

学校関係者からの意見・要望・評価等
学校運営協議会委員よりいただいた意見、評価等： 【意見】 ①新学習指導要領が目指す「自分の頭で考えられる」(課題を発見し、自ら解決に取り組む)生徒を育てるには、教科書を基本にしながらも、その内容を発展的に捉える問題意識を植え付けることが肝要。記載内容を理解し、暗記する程度にとどまる授業は、改善の余地がある。 ②内進生には、6年の間に一貫性のある指導が行われ、個性と能力が開花するよう配慮する必要がある。高校からの生徒には、早期に人生の目的を発見できるよう働きかけ、それに向かって自己研鑽する姿勢を植え付けることが必要。 ③新たな普通科の取り組みについては、6ヶ月、1年という単位で教員間の意見交換や生徒からのヒアリングを行う必要がある。「こう決めたから」ではなく「改善点はないか」というスタンスが必要。 【要望】 緊急時の学校からのメールなどによる連絡は少しでも早くお願いしたい。 【評価】 ①本年度スタートした「新たな普通科」の取り組みに対し評価している。試行錯誤しながら、時代に合ったあり方に今後も期待したい。 ②歴史と伝統のある高等学校として甘んずることなく、今の時代に求められる人間力の育成を視野に学校運営がなされている。 ③一年次から科目などの選択を可能にしていることは、自分に合った進路を決定する上で、生徒にとっては大変助かると思う。 ④キャリア教育を核とした中高一貫教育の展開は、他校や進学先を重視する私学の中高一貫とは質を異にしており桐蔭の特色と言える。 ⑤高1での混合クラスはよい取り組み。内進生にとっては外部進学者の存在は刺激的で、学校生活を立て直す機会となるし、外部進学生にとっては3年間の中学校での過ごし方や習得内容の違いに驚くだろうが、高校生活を充実させようと思う。
【その他】 めまぐるしく変化する環境の中、先生方の対応も大変だと思うが健康に留意し学校運営を充実させてほしい。